



# 情報活用の実践力(深い学び)を図書館で

—新聞記事Web検索と紙の新聞との比較を通じて—

二田 貴広



## <抄録>

教育へのICT活用が全国で進みつつあるが、図書資料や新聞等を用いた従来の学習方法と、ICTを活用した学習方法とを比較して、従来の学習方法やICT活用の学習方法の客観的なエビデンスを明確に示す実践研究はほとんどない。本稿では、図書館を利用して紙の新聞から情報収集した従来の学習方法と、Web検索とSNSを活用したICT活用型の学習方法とを比較して、双方のメリット・デメリットを明らかにする。

## <キーワード>

学校図書館、深い学び、ICT活用、新聞記事検索、SNS

## 1 問題の所在

紙の新聞には一覧性や俯瞰性があるので、関心のない記事から思いがけず情報が得られたり、社会で起きていることを広く知ったりすることができる。一方、デジタル化された新聞、とりわけインターネットサイトの記事は自分の知りたいものしか見ないので、関心のない情報を見ることは稀である。

このようにデジタル化された新聞と比較して紙の新聞の優位性とデジタル化された新聞のデメリットが語られることがある。そのデメリットは、新聞記事検索機能を用いた学習において、さらに鋭い問いとなる。「検索キーワード」が載っていない記事は検索から漏れてしまい、しかも漏れた記事は、検索者が見逃したわけでもなく、そもそも目の前に現れないからだ。

しかし、筆者は以下の2つの疑問をいただいた。

- ・ツールやコンテンツのデジタル化が今後進むことはあれ、後退することはない。ならば、デジタル化を活かす新聞を利用した教育(NIE)を考えるべきではないのか?

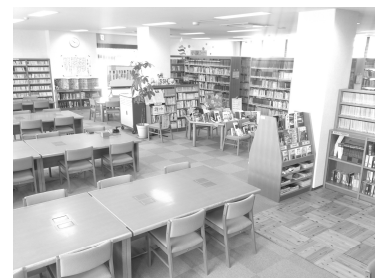
- ・紙の新聞を用いた実践とデジタル化された新聞を用いた実践を比較した研究がきちんとなされていないのに、紙とデジタルの優劣を議論できるのか?

これら2つの疑問から以下に紹介する実践を行った。

## 2 実践研究の方法 ~ラーニングcommonsとしての図書館~

奈良女子大学附属中等教育学校の学校図書館は「多目的ライブラリー」と呼ばれる。その名の通り、書籍、雑誌、絵本、ビデオ資料、新聞等の資料がそろう、協同学習のしやすい空

間デザインがなされている。Wi-Fiも整備されており、学校備品のiPadをインターネットにつないで利用できる。小さな図書館であるが、まさにラーニングcommonsとして日々機能している。



ラーニングcommonsである特徴を活かして、「問題の所在」で指摘した疑問を解消するために、下記の授業実践を試みた。

- ・対象生徒：前期課程2年生(中学2年生)A・B・C組  
男子58名 女子64名
- ・単元：情報を読み活かすコンピテンシーを身につけよう
- ・教材：教科書教材「学ぶ力」(内田樹)、「競争原理むしろ学力下がる」(内田樹, 2011.10.13朝日新聞)
- ・授業概要：※以下、A、B組の学習方法を「ICT活用型」と呼び、C組の学習方法を「従来型」と呼ぶ

- A組**
- ①上記教材を読む
  - ②「学力」や「学力低下」をキーワードにして、「朝日けんさくくん」(朝日新聞記事データベース検索ツール)を用いて記事を探す。
  - ③生徒が「よい」「面白い」「紹介したい」と考えた学力や学力低下に関連する記事をednity<sup>※後述</sup>に投稿してクラス全員で共有する(図1参照)。
  - ④上記③の情報から、「学力」や「学力低下」についての現時点での自分の「最適解」を記述する。

**B組** A組と同様の学習活動を行う

- C組**
- ①同上
  - ②「学力」や「学力低下」をキーワードにして、2ヶ月分の毎日新聞、朝日新聞、読賣新聞から記事を探す。
  - ③生徒それぞれが自分が「よい」「面白い」「紹介したい」と考えた、学力や学力低下に関連する記事を切り抜き、廊下に掲示してクラスで共有する。
  - ④学力や学力低下とはどのようなものであるのか、自分が紹介した記事を引用しつつ3~4人のグ

FUTADA, Takahiro : 国立大学法人奈良女子大学附属中等教育学校(奈良県奈良市東紀寺町1丁目60-1)

ループでディスカッションする。

- ⑤グループでのディスカッションとグループでは紹介されなかった記事も改めて参照し、学力や学力低下についての現時点での自分の「最適解」を記述する。

図1 教育用SNS、ednityに投稿された記事と意見



※ednityは、教育用に開発されたSNS（ソーシャルネットワークシステム）。意見の投稿や話し合い、画像データやワード、パワーポイントのファイル、URLの紹介等、さまざまな情報を共有できるツールである。先生がグループをつくり、そこに生徒が参加する形式で部外者は入ることができない「閉じた」「管理が容易な」SNSであるため学習に活用しやすい。なお、ednity等のSNSでの記事共有の可否は各新聞社への確認が必須。

上記の学習のあと、A組B組ではC組と同じ従来型の学習方法を実施、C組はA組B組と同じICT活用型の学習方法を実施し、学習方法の差による不公平性を解消するとともに、ICT活用型、従来型を比較した上で生徒による評価を可能とした。

### 3 実践研究の結果とその分析

ABC各クラスで収集した新聞記事の数と収集に要した時間は以下の表1の通りである。なお、A組B組では例えば4人が同じ記事を投稿した場合があるが、それは「1」として数えた。

表1

	記事の数	時間
A組	63	35分
B組	108	35分
C組	40	90分

上述の通り、全ての生徒たちがICT活用型と従来型の双方の学習活動を体験している。学習活動終了後にアンケートに答えてもらい、生徒たちがこれらの学習活動をどう捉えている

か明らかにした。結果は表2の通りである。

表2 ※2) 以外は上位2位までで3位以下は割愛した。数字は人数  
アンケート回収数はA組=38人 B組=39人 C組=38人

1)新聞紙を切り貼りした活動の「よさ」はなんですか？	A組	B組	C組
目的以外の記事も自然と読むので新しい知識や発見がある	15	16	8
よく記事を読むので内容が頭に入る	9	10	17
2)新聞記事検索とednityを使った活動の「よさ」はなんですか？	A組	B組	C組
キーワードで検索が手軽に簡単	30	29	26
ednityで他の生徒の投稿した記事をすぐに手元で共有できる	8	14	26
情報量が多い	6	8	17
3)新聞紙を切り貼りした活動の「悪いところ」はなんですか？	A組	B組	C組
時間がかかる	17	26	22
無関係で膨大な数の記事の中から探し出す手間がかかる	18	7	16
4)新聞記事検索とednityを使った活動の「悪いところ」はなんですか？	A組	B組	C組
キーワードでヒットした以外の記事は見ることができない	11	14	6
記事の内容をよく読まずに投稿しがち	6	8	14

表1・2からは、紙の新聞よりも検索システムを使うほうがより大量の記事を短時間で集められるメリットとともに、検索システムを利用した場合、記事の内容をよく読まずに投稿してしまう生徒の姿が浮き彫りになった。

あわせて記述式のアンケートも実施した。その記述内容から、多くの生徒たちはこの学習活動の目的を、「2つの方法の長所短所を実体験し、よりよい方法を取れるようにするため」と推察したことがわかる。また、この学習活動を通じて、「たくさんの情報から必要なものを見つける『発見力』」、「たくさんの人の意見を踏まえた上で、自分の意見を書く力」が向上したと、どのクラスでも3分の2以上の生徒が記述した。

以上のことがわかると、学習をデザインする教員が、学習の目的に合わせて従来型とICT活用型の双方のメリットを活かした学習活動をデザインすることが可能になる。

さらにいえば、生徒の記述に見られる通り、メリット・デメリットを生徒たちが体験的に知ることによって、生徒自身が双方を学習の目的や必要に応じて使い分けたり組み合わせたりできるようになるといったコンピテンシーの獲得と活用、すなわち情報活用の実践力としての「深い学び」が発動する学習とすることもまた可能になる。

今回は、ラーニングコモンズの特徴を活かしきれていなかった。今後は、書籍や雑誌の情報をも合わせ読む活動も行いたい。